

青山学院中等部

算数

基本的な問題を幅広い分野から出題します。それぞれの問題は原則として独立していますが、枝問のある大問も出題します。

国語

あらゆる文章から出題します。知識問題・語句などは、読解総合問題のなかで問い、漢字は独立した問題として出題します。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野からまんべんなく出題します。小問5問を集めた問題と合わせて、大問5題です。

社会

地理・歴史・政治経済の3分野から2:1:1の割合で出題します。それぞれの分野の重要語句は、漢字も含めて正確に覚えてください。

穎明館中学校

算数

規則を正確に適用し、敏速に計算処理ができるかどうか、問題解決能力、論理的思考力、図形直観力があるかを問います。①は計算問題、②は小問集合、③～⑤が大問です。途中式を書く大問には部分点があります。

国語

文章読解問題は、論説文と小説が中心です。正確な速読を必要とする設問で、記述式の設問を中心に、読解力、思考力、表現力を問います。基本的な漢字能力、文法能力も問います。

理科

4分野から偏りなく出題します。理科に興味を持ち、観察や実験に自分からきちんと取り組むことができるかどうかを見ます。基礎的な知識と科学的な思考力を問います。

社会

3分野を総合して、大問を2題出題します。地理と歴史では、基本問題ではありますが、地図・統計・年表・写真・絵などを多用して、知識の確かさと広さ、理解力の深さをいろいろな角度から問います。公民では、日本の政治・経済・社会についての基礎的知識を問うだけでなく、時事的な問題も取り上げます。

桜美林中学校

算数

総問題数は20問で、計算問題、逆算による穴埋め問題が2～3問、問題文の短い小問が8～10問です。ここには〇〇算といわれるものや、面積・体積を問う問題が含まれます。残り的大問は3～4題で、速さを利用する問題や特殊算などです。基本的な問題が中心なので、計算ミスがないよう注意してください。

国語

漢字や語句、表現の問題には正しい知識が必要です。日ごろから本や新聞を読むこと、正しい日本語を使うことを心がけましょう。長文読解問題は、小説・物語文と論説文・説明文から1題ずつ出題します。どちらも2500～3000字程度です。小説・物語文では、登場人物の心情や動き、作品の表現が問題の中心になり、論説文・説明文では、全体や部分の内容を正確に理解したかが出題の中心になります。

理科

2017年度までは大問が5題で、大問ごとに物理・化学・生物・地学と総合（時事問題も含む）から出題していましたが、2018年度からは大問を3題にし、一つの大問で複数の分野にまたがるような問題や時事に関する問題を出題しました。今までどおり基本的な語句や現象などの知識を問う問題も出題しますが、与えられた条件から内容を理解する問題や計算問題も出題します。試験時間40分、満点80点は変わりません。

社会

地理・歴史・公民の各分野から40～50問程度を出します。地理は日本の地理を中心にしながら、地域と産業、テーマに沿ったものを出題します。歴史は各時代の政治・経済や文化、あるテーマに沿った内容を、公民は政治・経済、国際、時事問題について出題します。最近の出来事について調べておくようにしましょう。

かえつ有明中学校

算数

50分・100点満点。大問は6題構成です。①は計算問題（5問）で、正確に速く解く計算力を見るために、地道に粘り強く計算する問題と、規則性を見つけ出して工夫する問題を交ぜています。②は一行問題で、基本的な文章問題の読解力と、処理能力を見るために、いろいろな分野から出題します。③～⑥は応用問題ですが、この順番でだんだん難しくなっているわけではないので、すべての問題を見て、解けそうな問題から解き始めてください。

国語

50分・100点満点。大問は3題構成です。オーソドックスな出題で、ていねいに読む力と、基本的なことばの力を試します。①は説明文の読解問題で、要旨、段落構成、段落ごとの要点、文脈が読み取れているかを見ます。②は物語文の読解問題で、主題、心情、情景、場面、表現が読み取れているかを見ます。①と②はそれぞれ3500字程度で、配点は各40点程度です。設問は各10問程度で、選択肢・抜き出し・記述の形式で出題します。③はことばの問題で、漢字・語彙力・慣用句・文法などの知識を見ます。配点は20点程度です。

理科

25分・50点満点。大問は4題または3題構成です。物理・化学・生物・地学の各分野から、ほぼ均等に出题します。出題内容は、実験に関する問題、図やグラフを用いた問題、計算問題・説明問題など。解答は、選択肢、語句や用語を求める、数値を求める、説明するなどの形式で行います。

社会

25分・50点満点。地理分野・歴史分野・公民分野から出題します。大問は2題構成で、配点は3分野ほぼ均等です。①が地理分野＋公民分野、②が歴史分野＋公民分野で、問題数は25～30問です。地名・人名・社会科の用語は漢字で書けるようにしておいてください。設問形式は、語句の記入、記号選択、記述問題（15字～25字程度）です。

出題のポイントは、地理分野は「国際関係の問題」「グラフ、データを読み解く問題」、歴史分野は「テーマ史、部門史」、公民分野は「時事問題（10月末までの出来事）」です。

国学院大学久我山中学校

算数

〈一般・CC入試〉

大問は4題で、基礎学力と応用力を見る問題が半々となっています。①は整数・分数・小数の四則混合計算問題(4問)、②は標準的な雑小問(7問程度)、③は融合問題(4問程度)、④は記述問題(4問程度)で、(1)と(2)が、(3)～のヒントになっていることが多くあります。記述問題は、思考力と表現力が必要となる問題です。しかし、難度としては標準的なレベルで、落ち着いて取り組めば解ける問題です。

〈ST入試〉

試験時間は60分で、配点は150点。応用問題である大問2題(記述問題は1題)に、標準的な雑小問を合わせた形になります。基礎力に加え、応用力を見る問題で、各分野からまんべんなく出題します。雑小問は一般・CC入試より問題数が多く、難度は上がり、大問のなかの小問も多くなります。計算問題は出題しません。

国語

〈一般・CC入試〉

長文の「読解問題」を大問で2題、そして「国語常識問題」を1題、独立した形で出題します。長文問題のジャンルは小説・随筆・評論など多岐にわたりますが、目安としては、文学性の高い文章と論理性のある文章とを組み合わせ、読解力を問う問題を出題します。問題文の長さは、それぞれ3000字前後を目安にしていますが、内容によっては、この字数にこだわらずに出題しています。国語常識問題は漢字の書き取りや読み取り、慣用句、故事成語、ことわざ、敬語などを30点分出題します。

〈ST入試〉

問題構成については、一般入試(1・2・3回)の問題構成に加え、「主題を考えさせる問題」が1題加わり、全部で4題となります。「主題を考えさせる問題」では、ジャンルを問わず幅広いテーマで出題し、配点は10点前後です。問題文は1000～1500字程度で、解答については、文章の読解を通して、筆者の言いたいこと(主題・主張等)をとらえ、それを50～100字程度で記述します。

理科

大問数は「物理」「化学」「生物」「地学」、および「全分野からの基本問題」の各1題、合計5題で、配点は各10点です。大問ごとに5問程度の小問があります。物理は教科書で学ぶ基礎的な事柄を発展させた問題、化学は身近な物質を使った実験に関する問題、生物は身近な生き物の生態や社会的に話題になっている事柄に関する問題、そして、地学は身の回りの自然現象に関する問題などを、それぞれ出題します。全分野からの基本問題は、教科書で扱われている語句、現象、観察の結果などに関する出題です。

分野別の大問は、小学校での学習内容とそれをもとに考察していくような形式で、思考力を問う問題が多く、単純に暗記力や計算力を試す問題は少ないと考えてください。日常生活のなかで見られる自然現象や科学技術に着目し、実験結果をもとに考察していく問題を多く

出題します。なお、社会的に話題になっている時事的な事柄については、小学校の範囲をやや超える内容でも出題することがあります。

社会

大問は全部で 3 題です。①は社会全般にまたがる総合問題です。わたしたちの生活のなかにある身近な話題をテーマに取り上げます。グラフの読み取り問題をはじめ、考察力・思考力・理解力が求められる出題が中心です。日ごろから、新聞やニュースなどにも関心を持ってほしいと思います。②は地理・歴史の融合問題で、日本全国の自然・地理・産業から歴史・文化まで幅広く出題します。地図や図表・統計を読み取り、それを自分の知識とつなげて考える力が必要です。③は歴史の単独問題で、写真や史料などから歴史を読み解く問題を出題しています。各時代の特徴を押さえ、「いつ、どこで、誰が、何を、どうしたか」に注目して勉強してください。出題は選択肢を記号で選ぶもののほかに、記述式の説明問題などもあります。

渋谷教育学園渋谷中学校

算数

答えのみを書くのではなく、記述する問題を含む形式にしています。具体的には、**①**は6問中1問が記述、**②**以降は、大問3題のうち1題が記述で、それぞれ大問1題に小問が数問あるスタイルです。数学科としては、小学校卒業までに身につけてもらいたい計算力や基本的な問題を解く力はもちろん、物事を多面的に見ることができる力や文章を読解する力なども、入試で確認したいと考えています。問題作成においては、総合的な力を見ることができるようにと心がけました。また、記述問題を導入したのは、式や図からどういう考え方をしたのか、どこまで考えることができたのかを見ていきたいと考えているからです。

国語

帰国生入試を含め、各回の問題の形式や難度などには変化をつけずに作成しています。難度は前年度と同程度と考えています。出題形式も例年と同様です。文章を読んで設問に答える問題を2題出題します。1題は小説・物語文、もう1題は評論・説明文です。設問は読解問題が中心で、本文をじっくり読み、いかに自分のものになっているかということを見たいと考えています。登場人物の気持ちの動きや、筆者の論の流れを自然にとらえることができれば、答えやすい問題が多いのではないのでしょうか。設問の形式としては、選択式・記述式のどちらも出題しますが、記述を重視しています。字数制限のある問題は、長いもので80字前後です。部分点をつけながら採点します。一方、漢字や語句などは単独では出しません。いずれも大問2題の中で出題します。

理科

年により出題数や配列、構成、出題形式などは多少変化していますが、傾向は基本的に変わりません。考える力や表現力をしっかり見たいと思います。理科としては、4分野（物理・化学・生物・地学）に分けることにはこだわっていません。過去問を見ればわかるように、総合問題も出題しており、理科全体から幅広く出題したいと考えています。

社会

本校の教育目標の一つである「国際人」の育成に注目し、現代の社会情勢に興味・関心を持っている生徒を見極められるような入試問題を作成したいと考えています。出題のポイントは、①「判断力」を問う、②「記述力」を問う、③社会的関心の高さを問う、の三つです。①は、知識をもとにして判断する力があるかどうかを問うということです。統計資料やグラフ、史料、地図などを読み取る力が必要です。②は、単に物事の正否判定を問うのではなく、因果・背後関係の説明を求めるといったものです。ふだんから自分のことばで文章を組み立てる練習が必要でしょう。そして、社会科の学習の基本は、興味・関心を持つことなので、③として、日本や世界に対する興味・関心があるかどうかを問います。時事問題への情報の収集が大切です。

順天中学校

算数

問題は大きく「計算問題」「一行問題」「総合問題」の三つ。総合問題は、それぞれ小問 3 問程度から成ります。「図形（面積・体積・角度など）の問題」「量の変化をグラフから読み取る問題」「規則性や周期性を見つける問題」「割合に関するさまざまな問題」「文章から何が問われているかを読み取り、粘り強く解決していく力を見る問題」などから毎年 3 題を出題しています。これらの問題を通じて、①基礎的な計算力が備わっているか、②数や図形の基本的な性質を理解しているか、③与えられた条件から論理的に分析して解答を導き出すことができるか、④知識を融合させて問題を解決できるか、を見ます。

国語

「自然科学や社会科学に関する説明文の内容や主題を論理的に読み取る問題」「小説・物語から登場人物の心情の変化を読み取る問題」「語彙力（漢字の読み書き、ことわざ、慣用句、四字熟語、ことばの意味を確認する問題）」で構成しています。説明文では、「文章を論理的に読み取れるか」、小説・物語文では、「登場人物の心情が読み取れるか」を問います。ことばに関する問題では、中学入学後に必要になる語彙力が備わっているかどうかを確認します。自由作文の問題では、解答を自分のことばで適切に表現することが大切です。

理科

「動植物の生態や形態について問う問題」「地形、岩石、天体や気象を問う問題」「水溶液や気体など実験を通して問う問題」「力、電流回路、磁石、光など実験を通して問う問題」を出題します。観察力、筋道を立てて考える力、実験方法と結果から考察する力、計算力、問題を解決する力が必要となります。

社会

「日本の特徴的な地域や代表的な産業を問う問題」「日本の歴史事項・文化・対外関係を問う問題」「時事問題・国際問題を含めた政治経済の基本事項を問う問題」「図表や写真資料・グラフなどを見て考えさせる問題」を出題します。日本地誌、歴史の流れ、国の基本的制度などの知識や、事象を結びつけ、融合する力が必要となります。また、時事的事項に興味・関心を持っているかどうかも見ます。

英語（第 3 回入試 選択教科）

「リスニング問題」「語法・語彙に関する問題、並べ替え英作文問題」「文章理解問題（内容理解、日本語による要約問題）」の三つで構成しています。これらの問題を通じて、英検® 3 級程度の語彙力、基本的なリスニング力、短文の構文力が備わっているか、コミュニケーションの場面や話題を理解できるかどうか、そして、ある程度まとまった英文を理解し、日本語で要約できるかどうかを見ます。

成蹊中学校

算数

〈出題方針〉正確な計算力をベースにした算数の力が身についているかどうかを確認します。どの分野からも偏りなく出題することを心がけています。

〈問題の傾向〉計算問題は必ず出題します。「〇〇算」「図形」「割合・比」「二つの量の変わり方」など、どの参考書や問題集にも載っている典型的な問題を多く出題します。また、典型的な問題を組み合わせた応用問題も出題します。いわゆる難問といわれるものも出題することがあります。

国語

〈出題方針〉いろいろな形態のまとまった文章を読む力を見ます。文学（物語文）では、状況を把握し心情を理解する力を、非文学（論説や説明文）では、論旨や筆者の主張を正確につかむ力を主に見ます。記述問題では、文中のことばをつなぎ合わせるだけでなく、理解したことを自分のことばで的確に表現する力があるかどうかを問います。

〈問題の傾向〉長文読解問題（文学と非文学）を出題します。理解力と表現力を確認するために、50字から100字前後の記述式問題も出題します。また、接続詞・指示語・語句説明・漢字などの基本的な問題も出題します。選択肢の問題であっても、全体を把握したうえで答えるような出題を心がけています。

理科

〈出題方針〉小学校理科のいろいろな分野からまんべんなく出題し、基礎知識を幅広く問います。基本的に4分野（物理・化学・生物・地学）から1題ずつ出題します。答えを選択する問題のほか、文章で答える問題や計算問題なども出題します。

〈問題の傾向〉本校での授業の中心となる実験・観察を取り上げた問題を毎年出題しています。図やグラフを用いた問題も毎年出題し、データの読み取りや考察の力も重要視しています。

社会

〈出題方針〉「考える」ことを重視する授業方針から、ただ知っている知識などを尋ねる問題だけでなく、提示された情報・資料をもとに理解し、考察する力を見る問題があります。問題は、大きく歴史問題と公民問題に分かれています。出題形式は、長文を伴う大きな問題と、短文（長文の半分程度の文）の構成で、短文の設問の数は、長文問題の半分程度です。歴史問題と公民問題のどちらかが長文問題となりますが、どちらが長文、短文になるかはわかりません。長文の問題は、紙面上で授業を展開するかたちで文章がつづられています。じっくり本文を理解しながら読み、その後の設問に答えることを期待して作成しています。

〈問題の傾向〉設問には、短い単語か記号で答える問題と、文章で答える問題とがあります。記述で答える問題の配点は高く、全体の50%の比重を置き、重視しています。歴史問題は、教科書できちんと学習していれば答えられるように出題します。公民問題は、現在の政治・社会問題に焦点を当て、具体的素材を提供して出題します。日本国憲法を絡めた設問が必ず

あります。本文の中には、設問で要求されている記述の答えが隠されています。また、地理の要素の問題は、長文の問題の中で出題します。時間の配分を考えて取り組んでください。

成城学園中学校

※成城学園中学校では「入試の出題傾向」という形ではなく、「中学校入学までに身につけてほしいこと」として、以下の情報を公開しています。

算数

「整数・小数・分数についての四則計算（加減乗除）をすばやく、正確に行える計算力」「問題文の意味、および何を問われているのかを理解する力」「思考の途中経過を他人が見てもわかるように表現する力」「50分間の授業に取り組むことができる集中力」をつけるよう心がけてください。

国語

特殊な知識などを身につけることも大切ですが、何より小学校で学習した基礎的なことをきちんと身につけて入学してほしいと思います。まずは「読解力」。説明文では、書かれている内容を整理し、要点を押さえながら読む力を、小説では、場面の移り変わりや登場人物の心情の変化などを押さえながら読めるような力を身につけてほしいと思います。そして、「表現力」として、自分の考えや感じたことを正確に文章に表現する練習をしておいてください。こうした力を身につけるためには、さまざまな内容の文章に触れるなどして、日ごろの読書量を増やすことが大切です。また、新聞を毎日読む習慣を身につけ、記事を要約してみるのも有効でしょう。さらに、小学校で学習する漢字（1006字）の読み書きがしっかりできるようにしておいてください。

理科

小学校の理科の教科書にある内容について偏りなく勉強し、基礎・基本をしっかりと身につけてください。単に知識を丸暗記するのではなく、分析する力をつけてほしいと考えています。実験であれば、その実験の結果から法則性を見だし、その法則性を応用するということが重要です。観察の場合には、対象物の特徴を見つけ出し、その特徴をまとめられる力をつけることが重要です。また、中学校の授業では実験の数値を計算する機会が増えます。その際、小数や分数の計算が必要になることがありますので、小数や分数を含んだ四則計算が正確にできる力をつけておいてほしいと思っています。このほか、実験でガスバーナーを用いることが多くあります。マッチの擦り方（火のつけ方）、ガスバーナーの点火方法、炎の調節の仕方などの実験操作に慣れておくとよいでしょう。

社会

小学校5～6年生で学習する地理・歴史（日本史）・政治（社会の仕組み）の基本的な内容をしっかり理解しておいてほしいと考えています。その基本的な知識のうえに、それらを用いて思考し、判断できる応用的な力が身につけるとよいでしょう。たとえば地理分野では、地図やグラフ、表、図版などを読み取るなど、単純に記憶するだけではなく、物事の関連やつながりを理解し、考えることのできる力を身につけておくとよいと思います。歴史分野では、主要な人名や出来事を正しい漢字で書くことはもちろん、時代の特徴や流れ、社会の変

化などを意識して押さえておいてください。政治や現代社会の仕組みについては、基本的な知識に加えて、時事的な内容にも興味や関心を持ってもらいたいと考えています。そのため、小学生なりにニュース・新聞などで、世の中の出来事に関心を持ってほしいと思います。

青稜中学校

算数

設問数は 20 問で、50 分の試験になります。1 問当たり 5 点の配点で、答えのみを採点し、途中式に対する部分点はありませぬ。内容は大きく七つに分かれており、一つ目は計算問題が 5 問で、四則の演算力を問います。二つ目は小問が 7 問あります。単位の換算、割合、約数や倍数の性質、速さと時間、角度を求める問題など、さまざまな分野から出題しています。三つ目以降の設問は、身近な題材を使った文章題となっています。つるかめ算・相当算・旅人算などの特殊算や、図形の問題などです。基本的な問題が多いので、時間配分に気を配り、確実に得点するように心がけてください。

国語

大問一（50～60%）では、小説や随想などの文学的文章を出題します。形式は一般的な読解問題で、記述・書き抜き・選択肢など、さまざまな方法で登場人物の心情や人物像などを聞いていきます。大問二（20%程度）は、500～1000 字程度の論理的文章を出題しますが、文章読解よりも、単純な指示語、文法などの言語事項を問うことに重きを置いた問題です。大問三（10～20%）は、ことわざ・慣用句・文法など、いわゆる国語の知識問題です。大問四（10%程度）は、漢字の読み書きの問題です。文章を時間内に正確に読解する力が求められます。日ごろから、さまざまな文章に触れるようにしてください。

理科

大問 4 題の構成で、物理・化学・生物・地学の各分野から、ほぼ均等に出題します。問題数は 30 問程度で、簡単な記述や作図問題を出題することもあります。基本的な問題から、問題中のデータ処理をする問題まで幅広く出題します。また、時事問題や環境に関連する問題もよく出題しています。日ごろから、理科にかかわるニュースに耳を傾けるようにしてください。

社会

地理・歴史・公民から均等に 20 点ずつ出題するので、社会全般にわたり、まんべんなく学習することが求められます。記号で答える問題以外は、すべて漢字等で正確に記述する力が必要です。基本的な知識の定着を前提として、統計を読み取ったり、説明文の正誤を判定したりする問題を数多く出題しているので、しっかり準備しましょう。また、時事的テーマに関する問題を出題することもあります。

玉川学園中学部

算数

毎年、分数や小数を含む四則混合の計算問題を出題しています。短文問題として、約数、倍数、割合、場合の数、図形の求角・求積の問題を出題します。また、統計の問題も出題します。

国語

出題内容は言語に関する問題と長文問題（説明的文章）1題という構成です。言語に関する問題は、漢字の読み書きと漢字の構成、文法、慣用句などについて出題します。長文については、5000字程度の説明的文章を読んで問題を解くことになります。内容理解を問う記述問題を必ず出題します。

理科

グラフなどの資料を読み取る問題では、環境についての問題が多い傾向です。身近な環境問題について、知識をたくさん身につけてください。また、身の回りの理科的事象について、興味を持ったり、「なぜだろう」と考えたりして、しっかり学習しておきましょう。

社会

歴史では幅広い範囲の知識が必要になります。地理では、世界の国々の位置、都道府県の形などを問う問題を多く出題します。公民では、環境や時事問題について考えたり、グラフを読み取ったりして解答する問題を多く出題します。

英語

出題内容は英検®4級から3級のレベルで、リスニング、リーディング、ライティングの3技能に関する英語の運用能力を問う問題を出題します。語彙・語法や文法の問題、長文読解、20語程度の英作文などがあります。

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

算数

大問数は5題で、試験時間は50分です。小問は全部で20問前後です。計算力は「算数」の学習の基本です。毎日、欠かさず練習問題を解くことが大切です。第1問は小数や分数を含む計算問題が3問。第2問は「小問集合」といって、いろいろな計算問題から出題されます。還元算、消去算、仕事算など「〇〇算」といわれる単元の基本を習得しておいてください。第3～5問は数量分野、図形分野、グラフの問題を出題します。数量分野では、特に数の性質、規則性などに注意しましょう。図形分野では、面積や体積ばかりでなく、長さ・角度・相似比・面積比などの考え方・解き方を身につけてください。グラフの問題では、速さに関するグラフ、水の深さの変化に関するグラフなど、さまざまな問題があるので、いろいろなグラフに接しておきましょう。第5問は、記述問題を出題するので、時間配分に十分注意してください。

国語

大問数は4題で、試験時間は50分です。第1問は「漢字の読み・書き」各5問。第2問は「ことわざ・故事成語・成句」から10問です。第3問は「視写」という問題です。150字程度の全文カタカナ書きの文章を読み、小学校までに習った漢字とひらがなで書き直します。全文を読んで内容を理解して漢字を用い、読点もつけてください（句点は問題文に記されています）。この過程を通じて、読解力や理解力、語彙力を見ます。第4問は長文読解です。説明文が多いですが、問題文の長さや設問数（10問程度）は、毎年同じくらいです。最後に200字の自由作文を出題します。長文問題の内容に関するもので、指示に従って考えや具体例、理由などを書くことで、発想力・表現力を見るためのものです。難問や奇問はなく、日ごろの基礎的な学習に加え、ふだんから本を読んだり、人とていねいなことばで会話したりするなど言語活動を通じて、ことばに興味を持つようにしてください。

理科

大問数は4題で、試験時間は「社会」と合わせて50分です。第1問は「生物と環境」、第2問は「物質と変化」または「運動とエネルギー」、第3問は「地球と宇宙」の各分野から出題しています。第4問は理科に関するデータなどの資料をもとに答える問題です。いずれも、内容は基本的なものがほとんどなので、ふだんからわからない問題があっても、すぐに解答や解説を見るのではなく、じっくりと考える習慣を養うことが大切です。特に実験や観察についての出題が多く、図やグラフを描いたりする問題や1～2行での説明（記述）問題も出題します。

社会

大問数は3題で、試験時間は「理科」と合わせて50分です。どちらを先に解いても構いませんが、得意な教科を先にやる人が多いようです。「歴史」「地理」「公民」の各分野から出題されます。いずれもB5判1ページ程度の文章を読んで答える形式となっています。「歴史」は時代ごとの出来事、「地理」は地形図を使った読図と地域の特徴、「公民」は身の回り

の出来事や社会問題に対する意見表明を出題します。基本的な知識をもとに考える問題ばかりですが、理由や背景などを説明（記述）する問題もあります。

中央大学附属中学校

算数

出題において重視するポイントは、「したたかな計算力」「論理的思考力」「図形や空間を把握する力」の三つです。「したたかな計算力」には、工夫により速く正確に結果を得る能力も含まれます。「論理的思考力」としては、長文を最後まで読み解く読解力、グラフに表されたものを見抜く分析力、仮説を立てて、場合分けする問題整理能力も問われます。「図形や空間を把握する力」では、回転したり、移動したり、切ったりといった「動き」に対する想像力も試されます。なお、「特殊算」については、参考書などで一通り勉強しておくといでしょう。

国語

出題形式は例年と同じように第1回、第2回とも大問2題で構成されています。大問の一つは、文学的な文章で、小説もしくは随筆が問題文となります。大問のもう一つは、論理的な文章で、論説文もしくは批評文が問題文となります。問題文については、文学的な文章も、論理的な文章も、他校の入試問題本文と比べて長めの文章となっています。また、その難度についても、必ずしも低いものではありません。速く正確に読むことが求められます。設問は、各大問に10問以上設定され、さらに枝問や個々の設問の中に解説文が組み入れられる場合があるので、かなりの問題数になります。また、解説文や四者択一の選択肢の文章も比較的長いものがあります。設問の文章についても、何が問われているのか、何を述べているのかという点を的確に理解することが求められます。

理科

本校の理科では、中学・高校を通して実験や観察を重視しています。自然や科学に関する基本的な知識とともに、実験・観察で得られた結果やグラフや表をみずから考える力や読み解く力が備わっているかを確認します。このため、ふだんから書物だけでなく、自然界のさまざまな現象についてみずから疑問点を探し出し、探究しながら学ぶことも大切だと考えます。そのような観点から、身の回りの自然を題材に、その場で考える問題や時事問題も含めて出題しています。問題は理科の全範囲から大問3題で出題を予定しています。グラフ、表を正しく読み解く力を身につけ、知識だけに頼らず、考える力・まとめる力・相手に伝える力を高めましょう。

社会

入試問題は、総合的な大問2題を出題し、地理・歴史・公民・時事の各分野についてまんべんなく問います。多くは選択肢から正解を選ぶ設問となっていますが、一部には語句を記す問題もあり、漢字での記述を求めることがあります。ある事柄について自分の考えや簡単な説明を求める「短文記述問題」も出題します。教室の中で学ぶ知識はもちろんですが、問題意識を持ってふだんの日常生活を送ってほしいとのメッセージを込めた設問も多く出題しています。たとえば時事分野では、新聞やテレビのニュースに大きく取り上げられている内容や、日常生活にかかわりのある内容を設問に盛り込むように心がけています。基本的知識

の習得や、いくつかの事実関係を関連づけて考察できる力を確かめるような問題を出題しています。

東京成徳大学中学校

算数

大問数 5 題で小問 20 問です。1 問 5 点で 100 点満点となっています。試験時間は 50 分で、過程をきちんと書かせる問題を何問か設定しています。規則性や図形の問題を増やし、考える力（試行錯誤のプロセス）を見る問題構成になっています。大問①は、計算や一行問題を合計 9 問出題しています。大問②と③では、公倍数や公約数を中心とした数の性質の問題や、規則性を見つけて解く数列などの問題、旅人算などの特殊算を 4 問ずつ出題しています。あとは平面図形や空間図形の問題を出題するので、図形の問題をできるだけ多く解いておきましょう。また、計算練習を繰り返し行うことを心がけ、文章題を解くときは、できるだけ図やグラフを描きながら考える習慣をつけてください。

国語

各回（第 1 回午前～第 4 回午前の計 6 回）とも大問が 3 題で、文学的文章（小説など）、説明的文章（論説文など）、語句に関する知識問題（ことわざ、慣用句、熟語の組み立てなど）と漢字の読み書きで構成されます。それぞれの長文読解問題の設問数は 7～10 問くらいで、そのうち記述問題は 1～3 問くらい（20～50 字で記述）です。本文中からの抜き出し問題ばかりではなく、説明させる設問も必ずあります。

理科

大問は物理・化学・生物・地学の 4 分野から、各 1 題は出題します。小問数は、記述・計算を含めて 30 問前後となります。独立した内容だけではなく、ほかの分野と関連した出題もあります。実験結果や写真・図が表していること、それから考えられることをしっかりととらえる力をつけましょう。自分でたくさんの実験をすることは難しいと思いますので、写真や図、実験方法が多く記載されている参考書は大きな助けになります。ぜひ活用してください。

社会

地理・歴史・公民の各分野から、基本的な問題を出します。時事問題を出題することもあります。基礎事項を確実に学習し、地名・人名・用語は正確に漢字で書けるようにしておきましょう。暗記力だけに頼らず、「考えて解く」ということを意識してください。

東京電機大学中学校

算数

本校の入試では、入学後に学ぶ「数学」へのつながりを考えた問題を出題しています。大問①では計算力を問います。基本的な計算がうまくできていない状況では、「数学」の学習でつまづく可能性が非常に高くなります。分数の四則計算・小数の四則計算、() が含まれる計算、還元算など、速さだけでなく、正確な計算力を身につけてほしいと思います。大問②では小問の集合、大問③以降では記述式問題を出題します。記述式問題は、本校の「数学」指導において基本となっている「思考過程を重視すること」につながっています。受験生の皆さんにも、「なぜその結果が得られるのか」ということを大切にしてほしいと考えています。

国語

物事を論理的に思考し分析するためには、十分な国語力が必要です。そして、それは他教科を学び、理解するうえでの土台となる能力であるともいえます。近年、教育現場においては生徒の「国語力の低下」が指摘されており、中高生の知的教育活動への影響が懸念されています。本校の入学試験では、受験生が本校における学習活動を行っていくうえでの十分な能力を備えているかという点を見るために、例年「文章題 2 題」「知識問題」「作文問題」「漢字の読み・書き」から構成しています。日ごろから自分の意見をことばで表現することを心がけてください。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から基本的な内容を中心に、均等に出題します。また、環境問題、近年話題になった自然科学関連ニュース、身の回りに起こる自然現象などについての簡単な問題も出題します。ふだんあまり気に留めない、日常の生活で当たり前と思われる現象や、身の回りにある変化を注意して観察してください。よく考えると非常に不思議なこと、驚くことが数多くあると思います。小さなことに疑問を持って、機会あるごとに、それを図書館や博物館に行き調べてみましょう。

社会

例年、地理・歴史・公民の 3 分野から 10 題ずつを出題しています。内容は、時事問題を除けば、基本的な事項を問う設問となっています。歴史の範囲としては古代から現代まで、また政治史のみならず、文化史や経済史までさまざまな分野にわたります。したがって、単に用語を覚えることより、きちんと歴史の流れなどを理解しているかどうか重要です。地理では地形図の読み取りを通して、その土地の成り立ちや特徴を答える設問が主流となっています。公民では新聞記事などを読み、そこから憲法や日本の政治制度について答える設問が主流です。時事問題はこの 1 年間の出来事から出題することが多いので、日ごろからしっかりとニュースに着目していきましょう。

東京農業大学第一高等学校中等部

算数

問題の形式は前年と同様で、計算問題、一行程度の文章題、思考的（作業的）問題で構成されます。第1回、第2回は答えだけを記入する問題が中心で、第3回は考えた過程を記述する問題があります。計算技能の確かさ、定理・法則を活用できる力、数量や形をイメージする力、情報を整理整頓できる力、試行錯誤できる力などを求めます。

国語

第1回は例年同様、漢字の問題と文章題（説明文2題）という構成です。第3回も、漢字の問題と文章題2題（説明文・物語文）で構成されています。文章量は4000字前後となり、本文に書かれていることを時間内に正確に読み取る力が求められます。また、内容をかみ砕き、選択肢を吟味できるかが重要です。文章のテーマは自然科学や文化などの身近なものを中心となります。漢字は「とめ・はね」を見ます。

理科

理科の基本となる内容や、身の回りの現象をテーマに、物理・化学・生物・地学の4分野から出題します。「知識や原理・法則の定着と活用」「情報の読み取り」「グラフ・表の内容把握」「考察や原因の究明」「自分の考えた道筋を表現する記述問題」などで構成します。知識の正確さ、原理・法則を活用する力、グラフ・表から情報を読み取る力、考えた道筋をわかりやすく伝える力などを求めます。

なお、第1回では理科と社会の融合問題を大問1題出題します。知識を問う問題だけではなく、知識を活用し考えて答えを導き出す問題などを出題します。

社会

地理・歴史・公民の3分野から出題します。全般的には人名・地名・事件名など社会科としての基礎・基本を確認し、地理分野では、雨温図・地形図・統計グラフなどを正確に読み取ることができるか、歴史分野では、時代ごとの政治・経済社会・文化の違いを理解しているか、公民分野では、時事問題を含む世の中の出来事に興味・関心があるかどうかを見ます。

人名・地名・事件名などについては、漢字指定の場合があります。

なお、第1回では理科と社会の融合問題を大問で1題出題します。知識を問う問題だけではなく、知識を活用し考えて答えを導き出す問題などを出題します。

東洋大学京北中学校

<第1回～第4回入試>

算数

【1】出題内容と傾向

大問数は5題です。大問1は計算問題、大問2は短文問題、大問3・4・5は応用問題です。応用問題は、速さや図形に関する問題を中心に、いろいろな分野から出題します。また、考え方と途中の計算式を書く記述式の問題も出題します。

【2】対策

①計算問題

小数・分数の計算や、工夫すると解きやすくなる問題を出題します。計算の正確性を上げるために、毎日少しずつ練習し、計算力を身につけてください。

②短文問題

数量分野・図形分野の基本問題を重点的に繰り返し練習してください。

③応用問題

時間・距離・速さの関係を十分に理解し、使いこなせるようにすることが大切です。また、グラフを読み取る問題も練習して慣れておいてください。図形に関しては、面積や体積を求めるだけでなく、「平面」「立体」の複合問題も練習してください。また、考え方や途中式を書く記述式の問題もあるので、解答の書き方を練習する必要があります。

④全体として

難問・奇問を出題することはありません。受験の基本から標準レベルの問題を中心に勉強してください。

国語

【1】出題内容と傾向

大問数は4題で、語句・文法・漢字などの知識問題が1題、文章読解問題が2題、そして150字以内の記述問題が1題という構成です。得点配分は、「語句・文法・漢字知識問題」が3割、「文章読解問題」が6割、「記述問題」が1割を目安としています。

取り上げる文章のジャンルは、登場人物の心情を把握する物語文と、筆者の意見を正確に読み取る説明文です。詩や伝記、古文、紀行文などは出題しません。

物語文は、登場人物の心情の理解に重点を置いて出題します。説明文は、環境問題や文化論など、さまざまなジャンルから出題します。設問も、文脈や内容の理解について、接続語の補充、指示語が指し示す内容、そして自分のことばで説明する問題など、幅広く組み合わせています。

150字以内の記述問題は、与えられたテーマについて、自分の考えを字数内でまとめるという形式です。考えの内容自体を点数化するのではなく、考えたことや感じたことを順序立てて自分のことばで表現できているかがポイントになります。

なお、知識問題のうち、漢字は小学校高学年で学習したものを多く取り上げます。慣用句や四字熟語、文法も出題します。

【2】対策

2500字以上の、少々長めの文章を読解できるような力が必要となります。筆者の意見や登場人物の心情を集中して読んでいけるようにしてください。そのためには、さまざまな文章に読み慣れておくことが大切です。また、文章を読むためにも、さらには漢字や語句の問題に答えるためにも、ことばに関する基本的な知識を身につけておいてください。

自分のことばで答える問題は各文章題にそれぞれ1問以上あり、また大問4として150字以内の記述問題もあります。特に150字以内の記述問題に向けて、ふだんからテーマを決めて書き慣れておくことが大切だと思います。

理科

【1】出題内容と傾向

大問数は5題で構成されています。大問1は小問集合題で、物理、化学、生物、地学分野からそれぞれ出題します。科学に関するニュースや話題からも出題します。大問2～5は、物理、化学、生物、地学の各分野から1題ずつ出題します。いずれの問題も基本的な内容です。また、科学的なことがらについての説明や考察、理由を述べる問題も出題します。

【2】対策

理科は物理、化学、生物、地学分野から出題するため、学習する範囲が広いです。どの分野からもまんべんなく出題するので、バランス良く学習することが大切です。ただ、ほとんどが基礎的な知識を問う問題です。教科書や問題集を用いて演習を繰り返す勉強を続ければ、高得点を狙えると思います。実験についての出題がありますので、グラフや表からデータを読み取る学習、結果や考察を考える学習を心がけてください。

社会

【1】出題内容と傾向

大問は3題で構成され、基本的な問題が中心です。地理・歴史・公民の全分野から出題します。配点の目安は、地理分野から20点、歴史分野から20点、公民分野から10点の合計50点満点となります。基礎的なことがらを幅広く出題する傾向になっています。解答形式は、記号の選択と用語の記述だけでなく、グラフや資料から読み取ったことをもとにして社会的なことがらについて考えを述べる問題も出題します。

【2】対策

社会科では、次の三つの実力(姿勢)を持った人に入学してほしいと考えて作問しています。一つ目は、小学校で習得する基本的な学力・知識をしっかりと身につけていることです。二つ目は、社会的事象について、多方面にわたり興味と関心を持っていることです。三つ目は、みずからの力で問題解決に当たる意志を持っていることです。したがって、入試では最後まであきらめずに問題を解く姿勢がとても大事になります。わからない問題があってもすぐには投げ出さず、落ち着いて問題を読んで、解答の糸口を探し出してください。

＜「哲学教育」思考・表現力入試＞

哲学的思考力問題

【1】出題内容と傾向

与えられた資料やキーワードに対して自分自身で複数の問いを作り、そのなかから一つを選んで自分の考えを 600 字程度で述べる問題を出題します。発想の独創性、論理一貫性、内容の説得力などが評価の対象となります。

たとえば「ころろ」というキーワードに対してさまざまな角度から考え、「ころろはどこにあるんだろう」「ころろを持ったロボットはつくることができる？」「ころろが広がって、どういうこと？」など、複数の問いをつくります。そして、このなかから一つを選び、問いに対する自分の考えを述べます。その際、どうしてその問いについて考えたいと思ったのか、その問いを考えることにどんな意味があるのか、といった問いの意義を示すことや、ほかの人ならどんな答えを持つのだろうか、ほかの人の意見に対して自分はどのように考えるか、といった内容を含めることで、多角的に論じることができます。また、単に自分の考えを述べるだけでなく、そのように考える理由や根拠を示して、文章に説得力を持たせることを望みます。

【2】対策

身近なことばやテーマについて、問いを作って考える練習をしてください。「どうして～なんだろう？」「もしも～だったら？」「〇〇と△△の違いは？」「そもそも～ってどういうことだろう？」など、さまざまな観点からものを考えることが大切です。また、「なぜ～ということが言えるのか」という理由や根拠を考える習慣を身につけることで論理的な思考を養う訓練になります。「なんとなく」「自分がそう思うから」ではなく、自分の周囲を見渡し、「実際に～ということがある」「もしも～なら…になるはずだ」というように、持っている知識をフルに使って自分の考えを裏付けることで、説得力のある文章になります。

算数

一般入試の第4回の算数と同一問題、同一時間での実施になります。

一般入試の算数の箇所を参照してください。

日本大学第二中学校

算数

基本的な計算力をつけましょう。ミスが減らし、計算するスピードをつけてください。また、問題文をよく読み、何を求めているのかを明確に判断する力を身につけましょう。応用問題はできるものから確実に解いてください。

国語

例年、長文読解の問題を出題しています。文章をしっかり読み、内容をつかむことが大切です。ほかに、漢字の読み書き、ことわざなどを出題したこともあります。文章に慣れる訓練をしておきましょう。

理科

4分野からまんべんなく、教科書の内容を中心に出题します。問題集や参考書で難問・奇問を練習するよりは、日ごろから教科書の基本事項をまとめ、確認しておきましょう。グラフの問題も解けるようにしておきましょう。

社会

3分野からまんべんなく、教科書の内容を中心に出题します。教科書をしっかり学習し、語句だけでなく内容も理解することが大切です。時事問題も出題するので、最近の社会の出来事に注目してください。

広尾学園中学校

算数

例年、計算問題や小問集合の正答率は非常に高いです。最後までしっかりと解き切る習慣をつけて、苦手な分野があれば問題集などで復習しておきましょう。どの問題も思考する力が必要となります。記述問題も出題しており、答えを導くまでの過程が問われています。教科書や参考書などに目を通し、問題を解くときは答えだけを導くのではなく、その過程をとらえた学習に努めてください。

国語

漢字や語句の知識、内容を的確に読み取る読解力、内容や考えをまとめてことばにする表現力の三つについて、いずれも相応の実力が求められているといえます。問題数も多いので、時間切れに注意して、ペース配分を考えながら解くことが重要です。ただ、難問・奇問の類いはほとんどないので、国語の基本的な力を身につけていれば十分に対応できるはずです。

理科

まずは、教科書や一般的な参考書・問題集に書かれている基本知識の整理を行ってください。そして、語句を覚えるだけでなく、意味をしっかりと理解して、基本的な知識をベースに、その場で思考・表現ができるように取り組んでいきましょう。また、グラフ問題や計算問題も出題するので、グラフの読み取りや計算力はもちろん、与えられた文章からポイントを見つける読解力も身につけておくとよいでしょう。

社会

まず、基礎を固めることを心がけてください。教科書のほか、説明が易しくていねいで標準的な参考書を選び、基本事項をしっかりと身につけましょう。また、広い範囲から出題しているため、不得意分野をつくらないことも大切です。問題集を解いていて自分の弱い分野が見つかったら、すぐに教科書や参考書に立ち返り、理解できるまで復習することです。

文教大学附属中学校

算数

全範囲からまんべんなく出題します。1問4～6点で、部分点を与える問題もあります。毎年、最初の大問は計算問題です。簡単な計算問題で間違えないことが合否の分かれ目です。確実な計算力を身につけましょう。

国語

文学的文章と説明的文章の長文2題を出題します。韻文はありません。長めの記述問題も出題します。記述問題を解く練習や、自分の考えを文章にまとめる練習をしておくといでしょう。

理科

4分野のうち、物理・生物・化学の配点がやや高めです。身の回りの理科的な出来事や、実験の問題も出題されます。星座や、電池と豆電球の関係など、毎年出題されている問題もあります。基本をしっかり学習しましょう。

社会

地理は、都道府県名に関する出題が毎年あります。歴史は、必要な基礎知識を完全にマスターし、時代名とその時代の大きな特色を押さえておきましょう。公民は、日本国憲法の三大原則（基本的人権の尊重、国民主権、平和主義）にかかわる内容を毎年出題しています。

法政大学中学校

算数

中学校に入ってから必要とされる基礎的な学力を見るために、基本問題を中心に出题します。計算力はもちろんのこと、特殊算、速さ、割合、場合の数、図形問題など、あらゆる分野において、基本から標準レベルまでの問題を数多くこなしておいてください。なお、解答欄は答えのみを書く形式です。

国語

物語的文章、説明的文章の読解問題を、大問として2題出題します。選択肢問題が主流ですが、抜き出し問題、記述問題も出題します。また、漢字の読み書きや慣用表現、接続詞、品詞の識別も出題します。書かれている内容を正確に読み取り、論理展開を押さえる演習をしておいてください。

理科

物理・化学・生物・地学のどの分野からも、基本的な問題を中心にバランス良く出題します。基礎的な知識を身につけるとともに、実験や観察の結果を確実に読み取り、考察できる力をつけるようにしてください。また、自然や科学に関するいろいろな話題について、ふだんから関心を持つようにしてください。

社会

地理・歴史・公民の各分野から出題しますが、分野ごとの割合は必ずしも均一というわけではありません。特に、基礎的な学力を見ることを重視します。問題文や資料を確実に読み取って、自分の知識と結びつける力が必要です。また、資料や図表などから、わかったことを記述する力も必要です。日ごろからニュースなどに関心を持って学習に取り組むようにしてください。

宝仙学園中学校 共学部理数インター

算数

「計算問題」「一行問題」「図形問題」「数学的思考力問題」という出題です。難問・奇問は出題しないので、基礎力をつけて適切な解法を素早く引き出せる練習をしてください。また、「数学的思考力問題」では、基礎知識に加え、規則性・対称性などといった論理的思考力を試す出題となっています。

国語

長文読解 2 題（説明的文章・物語的文章）、漢字の読み・書き、ことばの知識をそれぞれ出題します。文章の長さも設問数も標準程度なので、試験時間のなかで十分に解くことが可能です。しかし、論述解答を求めることもあるので、日々のトレーニングが大切です。文章中の表現を利用して解答をまとめるコツを、トレーニングによって身につけてきてください。筆者が何を伝えたいのか、ポイントを押さえて読む練習をしていくことが大切です。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野より 4 題出題する予定です。各大問には 5 問前後の小問を設けています。論述解答や図の完成などの出題もありますが、多くは標準的な内容なので、基礎的な知識を身につけ、問題集などで演習を繰り返して実力アップをめざすことが大切です。

社会

大問 2 題の構成で、ともに総合問題となります。試験時間内で十分に解けるように、記述問題を中心に、小問の数を減らしました。記述問題であっても、提示されている文章や図表などの資料を上手に活用すれば解答可能なので、あきらめずに挑戦してください。また、時事的な話題に関しても出題するので、日ごろから新聞を読むなど、ニュースに関心を持つことが重要です。

三田国際学園中学校

算数

今年度より、基本問題を3割程度、応用問題を3割～4割程度、思考力問題を3割～4割程度出題します。基本問題は計算問題を1題出題し、その他1行問題を出題します。範囲は、速さ、規則性、図形など幅広く出題します。応用問題は、融合問題やデータを読み取る問題を出題します。思考力問題では、途中点を採用しており、記述が必要になります。問題の傾向としては、与えられた文章のなかから規則を読み取り、理論を構築し表現するような問題です。「なんでだろう？」という気持ちを大事に、その根拠を自分で探す活動を重ねることが大切です。

国語

文学的文章から1題、説明的文章から1題を出題します。説明的文章では、言語や思考に関するテーマをよく出題します。各大問では、文章を客観的に読解する力を問う問題を土台とし、記述問題は1～2題を出題します。そのうえで、文学的文章では本文の表現の考察や意見論述、説明的文章では、与えられた資料（文章・図・表・グラフ）をもとに自分の考えを構築し表現する思考問題を出題します。日ごろから、出合った文章に対して「どのような問題があるのか」「自分はどのように考えるか（どのように解決するのか）」など、主体的に考える姿勢を大切にしてください。

理科

物理分野は単元の偏りなく出題します。地学分野は、地球と宇宙を中心に、生物分野からは生態や分類を中心に、化学分野では、身近な現象を例に挙げ、知識や応用力を問う傾向にあるので、日常的な経験を科学的な視点でとらえるトレーニングを重ねましょう。また、グラフを読み取り、そこで得た情報を組み合わせて答える問題もよく出題しています。図を理解するだけでなく、得た情報をみずから図に表して整理する習慣をつけておきましょう。

社会

地理分野では、日本の地理（一部世界地理が含まれる場合もあります）を中心に、特に日本の産業・自然・文化などになります。地図や雨温図などの資料に対する学習も行ってください。歴史分野に関しては、特定の時代や政治・経済・文化などの分野に偏ることなく、テーマ史という形式で横断的な出題をします。また、絵画資料や文化財などの資料問題も出題するので、幅広い学習を心がけてください。公民分野は、政治・経済・国際関係・環境から出題します。さらに、時事に関する論述問題は、ニュースや新聞で報じられていることをただ暗記するだけでなく、「なぜ起こったのか？」「なぜそのようになるのか？」「自分はどのように考える」など、社会の物事に対して「考える」姿勢を培ってください。

明治学院中学校

算数

教科として受験生に望むものは以下のとおりです。この趣旨の下、計算問題、文章問題、図形問題など幅広い範囲での問題の作成に当たっています。

- ・基礎的な学力（全範囲をくまなく取り組んでいるか）
- ・論理的思考力（問題をていねいに読み解き、解答までの道筋を見いだせるか）
- ・問題に取り組む姿勢（途中で投げ出さずに、粘り強く、問題に立ち向かえるか）

過去の入試問題を参考にすれば、おおよその出題傾向がわかります。記述式の解答法はなく、解答用紙には答えのみを記入します。一つの設問で複数解答の場合は完答を正解とします。単位がある問題には解答欄に単位を付けてありますので、単位記入は不要です。大問は、設問(1)の解答をそれ以降の設問で使用する問題が多いので、(1)の正答が求められます。大問①は、基礎力を問う計算問題を中心に出题します。

前年度は、基礎的な計算問題はよくできていた一方、解答が正しい表記として読み取れないため（例：コンマと小数点、1と7など）、不正解となったものがありました。速さや濃度の問題は例年出題していますが、苦手とする受験生も多かったようです。定規・分度器・コンパスを使用する問題も出題するので、道具の扱いには慣れておいてください。

国語

2018年度は、長文読解は全体的によく解けていました。選択問題、抜き出し問題を中心とした問題構成はこれまでと変わっていませんが、抜き出し問題は正答率が高くありませんでした。長めの文章であっても、ていねいに読み解く練習をしてください。また、誤字脱字に関しては、前年より増えていました。過去問に取り組む際は、解答用紙に書き写すことを想定して解きましょう。

詩歌については、技法もしっかりと学習されており、鑑賞問題もできていました。漢字問題もおおむねよくできていましたが、訓読みの正答率は低く、対策が必要と感じられました。

小学校の範囲の読み書きをきちんと勉強しましょう。

国語では、入試問題を通して日常生活のなかで必要とされる国語力をみています。要点をつかむ力、流れのなかで重要な点を見抜く力を養ってください。

理科 ※第2回・第3回入試で実施

2018年度はここ数年と同様、小問集合で出題しました。平均点は第2回が約6割、第3回が約5割となりました。総じて受験生にとってちょうどよい難易度であったと考えています。インゲンマメの発芽、成長とでんぷんの量や、暖められた空気と上昇気流、月の表面の様子、モンシロチョウの幼虫の食べ物に関する問題はよくできていましたが、てこや輪軸のつり合いは正答率が極めて低く、難易度が高かったものと考えています。

一方で、カシオペア座や北斗七星と北極星の方向や季節と星座、双葉が出る植物など、受験では定番といえる問題でも正答率が伸びなかった問題もありました。電気回路に関する問題は例年出題していますが、正答率が低く、苦手とする受験生も多くいるようです。また、2018年度は気象や火山の噴火などの時事に関する出題をしました。

2019年度入試については、現時点では大きく出題傾向を変えることは考えていません。したがって、このような例年の傾向を踏まえ、受験に向けて基礎的で重要な知識を整理するように学習を進めてください。同時に、受験までの季節の移り変わりのなかで、身近な自然現象に触れ、親しみや関心を持ちながら過ごしてほしいと思います。

社会 ※第2回・第3回入試で実施

地理・歴史・公民分野の割合と出題数は例年と同程度です。都道府県名や県庁所在地、人名や歴史用語などはきちんと書けるようにしてください。問題文の中に、使用する漢字が記載されている場合もあります。問題をよく読んでください。また、例年、説明を求める問題も出題しています。知識を丸暗記するのではなく、それぞれの出来事の内容や特徴・原因・結果などを理解し、説明できるようにしてください。教科書を基本としつつ、教科書では扱っていない事柄や時事問題も出題の対象とします。最近話題になった出来事にも関心を持って学習してください。例年、地図・グラフ・表などを使った問題を出題しています。また、統計資料の読み取りでは、単位に注意するなど、資料をもとに答えを導き出す力をつけてほしいと思っています。このほか、各分野の専門用語・人名・地名などは漢字で書けるようにしておいてください。また、都道府県名・都道府県庁所在地は地図上での位置も把握しておくようにしましょう。全体的に20世紀の出来事に関する問題が難しかったようです。しっかりと歴史をたどり、時事問題への関心を持って準備するようにしてください。

明治大学付属明治中学校

算数

1は解答のみを記入します。2以降の問題は、すべて式や考え方も書く記述式の設問です。図や表、ことばや方程式でも結構です。また、2以降は解答のみでは点を与えません。逆に、解答が間違っているにもかかわらず、式が合っていれば部分点を与えることも多くあります。

国語

通常は長文1～2題です。漢字の書き取りや日本語に関する知識問題（文法・慣用句・ことわざなど）も出題します。読解問題は記述式の設問が多くなっています。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野からまんべんなく出題します。いずれも実験や観察、身近な事象からの出題が多くなっています。物理や化学では計算問題、生物では記述式問題もよく出題します。

社会

地理・歴史・公民の各分野に加え、時事問題もよく出題します。記述・論述形式での出題もあります。地名・人名・用語は、教科書で漢字が使われているものは、解答でも漢字で書かれていないと、原則として不正解とします。

目白研心中学校

算数

計算問題（工夫して解く計算問題も含む）や基本的な一行問題と、濃度、場合の数、割合、図形（平面・空間）などの応用問題を出題しています。出題範囲はやや広めですが、計算力と標準的な問題の解法を問う出題がほとんどです。ふだんから計算問題と典型的な文章題を繰り返し練習してください。

国語

文学的文章と説明的文章から成る 2 題の長文読解問題と、漢字の読み書き、日常使われる慣用句や文法、ことばの意味を問う問題などを出題しています。ふだんから本を読み、語句をたくさん覚えるとともに、読解力をつけるようにしてください。

理科

「運動とエネルギー」「物質と変化」「生物と環境」「地球と宇宙」の各分野からまんべんなく出題しています。実験・観察をもとにした問題も多く出題しています。ふだんから基本的な問題演習や実験の確認などを行ってください。

社会

地理的分野からは、日本の各地域について出題し、歴史的分野からは、日本の歴史を中心に
出題します。公民的分野からは、三権（立法・司法・行政）、憲法などについて出題します。
解答を漢字で正しく書けるようにしてください。

英語（スピーチおよび Q&A 入試）

コミュニケーション能力を測る試験です。与えられたテーマに対する自分の答えと、その
答えを支える具体的な理由を二つ以上盛り込んだスピーチ原稿をあらかじめ準備してきて
ください。当日はそのスピーチの内容に関することと、受験生自身に関することを英語で
質問しますので、英語で答えてください。

※テーマは本校ホームページでご確認ください。